



| | |
|------------------|---|
| Title | 研究会報・編集後記 |
| Citation | 独語独文学研究年報, 33, 109-112 |
| Issue Date | 2006-12 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/18960 |
| Type | other |
| File Information | 33-editorsnote.pdf |



[Instructions for use](#)

研究会報

講義題目（２００６年度）

[学部]

| | | | |
|------------|--|----------------|----|
| ドイツ語学概論 | ドイツ語学の基礎知識 0 6 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学 | ドイツ語学論文の読みかた 0 6 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学演習 I | ドイツ語文献の読みかた | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学演習 II | 古ノルド語の基礎 | 清水 | 誠 |
| ドイツ文学史概説 | 文学史記述の諸問題 | 山田 | 貞三 |
| 独文学史概説 II | 近代以降のドイツ文学 | 山田 | 貞三 |
| ドイツ文学演習 I | 変身の物語 II | 山田 | 貞三 |
| ドイツ文学演習 II | メタモルフォーゼ II | 山田 | 貞三 |
| ドイツ語学 | Kulturelle Aspekte des Fremdsprachenerwerbs I | Christine Kühn | |
| ドイツ語学演習 I | Grundkenntnisse Deutsch II | Christine Kühn | |
| ドイツ語学演習 II | Kommunikative Sprach-Praxis I | Christine Kühn | |
| ドイツ文学演習 I | Grundkenntnisse Deutsch I | Christine Kühn | |
| ドイツ文学演習 II | Kulturelle Aspekte des Fremdsprachenerwerbs II | Christine Kühn | |
| ヨーロッパ言語文化論 | Kommunikative Sprach-Praxis II | Christine Kühn | |
| ドイツ文学 | フォトストーリー I | Barbara Klema | |
| ドイツ文学 | フォトストーリー II | Barbara Klema | |

[大学院]

| | | | |
|-----------------|---|----------------|----|
| ドイツ語学ゲルマン語学特別演習 | ドイツ語学の諸問題 0 6 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学ゲルマン語学特別演習 | ドイツ語学ゲルマン語学の諸問題 0 6 | 清水 | 誠 |
| ドイツ語学ゲルマン語学特別演習 | ゲルマン語学の諸問題 0 6 | 清水 | 誠 |
| 言語分析論特別演習 | 歴史比較言語学研究 0 6 | 清水 | 誠 |
| 博士論文指導特殊演習 | | 清水 | 誠 |
| ドイツ文学特別演習 | Germanistik und Kulturwissenschaft (5) | 山田 | 貞三 |
| ドイツ文学特別演習 | Germanistik und Kulturwissenschaft (6) | 山田 | 貞三 |
| 博士論文指導特殊演習 | | 山田 | 貞三 |
| ドイツ語ドイツ文学特殊講義 | Interkulturelle Kommunikation: Theorie & Praxis I | Christine Kühn | |
| ドイツ語ドイツ文学特殊講義 | Interkulturelle Kommunikation: Theorie & Praxis II | Christine Kühn | |

研究会行事記録

1. 2006年2月15日に北海道大学文学部 W 205号室（新棟2階）において2005年度
修士論文・卒業論文発表会が開かれた。

〈留学関係〉

◎ 2006年9月に熊坂 亮氏がチューリッヒより帰国した。

☆ 2006年6月17日の総会にて、幹事選出等が行われた。

2005年度 独語独文関係の論文題目

卒業論文

加藤 隆太 : ハルドウル・ラハスネス (Halldór Laxness) の文学作品から見る現代アイスランドの
研究

西出 佳代 : ルクセンブルクの言語状況

野村 まり子 : エーリッヒ・ケストナーと坪田譲治 ― 子どもの本をめぐって ―

修士論文

松島 智 : つかわれるためのウェブデザイン

野村 洋二郎 : ドイツと日本における報道の諸問題 ― 公金不正流用の報道をめぐって ―

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語学・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため、下記の事業を行なう。
 - 1) 機関誌「独語独文学研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会会員は北海道大学大学院文学研究科・独語独文学関係の教官・院生ならびにその趣旨に賛同するものによって構成される。

本会会員は上の活動の遂行のため所定の会費を払う。

本会は1名の会長と若干名の幹事をおく。幹事は会計および編集委員を兼任する。

本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。

本会の事務局は北海道大学大学院文学研究科におく。

本会に賛助会員をおく。

☆ 論文執筆要項

1. 論文審査
 - 1) 本誌は論文の掲載に関して審査を行う。
 - 2) 論文の採否は審査委員が決定する。その際、原稿への加筆、修正などを求めることがある。採否の結果は、編集委員会が投稿者に通知する。
 - 3) 審査委員は、編集委員会から委嘱を受けた本会所属の教員数名がその任にあたる。
2. 原稿執筆規定

執筆申し込み : 執筆希望者は、各年度の5月に行われる総会の前日までに、その旨を編集委員会に申請すること。

ページ数 : 20ページ程度。1ページの文字数・行数は任意。ただし35～37行程度が望ましい。

原稿の大きさ : A4。

論文題目 : 原稿1ページ目の最上段中央に、太字またはゴシックで多少大きめに記載する。二行にわたっても構わない。また、別紙にドイツ語または他の欧文による題目を記載する。

注釈・文献 : 注釈は脚注または奥付けとする。注釈番号はアラビア数字で右括弧付き。

執筆者氏名 : 原稿1ページ目の3行目(題目との間に1行あけること)、太字またはゴシックで右端に記載する。

身分の明記 : 原稿末に丸括弧つきで、右寄りで所属機関・職名を明記する。

締め切り : 10月31日。

会 員 名 簿

| | | | |
|----------|-------|-------|-------|
| ※青柳謙二 | 阿部和夫 | 石原次郎 | 伊藤祐紀子 |
| 岩井洋 | 岩田聡 | ※植木迪子 | 梅津真 |
| 岡崎朝美 | 香川千穂 | 川崎良江 | ※川島淳夫 |
| 川嶋幸子 | 岸川良蔵 | ○岸本明子 | 熊坂亮 |
| 佐藤修子 | 佐藤俊一 | 塩谷幸子 | 清水誠 |
| シャイフェレ馨子 | 神久聡 | ○真貝恒平 | ○杉浦康則 |
| 鈴木将史 | 瀬尾慎一 | 高橋修 | 高橋希衣 |
| 田中剛 | 対馬晃 | 寺田龍男 | ○戸松豊 |
| ○中村寿 | 中祢勝美 | 名執純子 | 名執基樹 |
| 西川智之 | 西出佳代 | 野村まり子 | 藤本純子 |
| 松橋知子 | 三浦國泰 | 最上英明 | 森田一平 |
| 山田恵子 | ◎山田貞三 | 山田善久 | |

◎は会長

○は幹事

※は名誉賛助会員

編集後記

レフェリー制を導入して6年目となりました。掲載論文は厳正な審査を受けた論文です。ご多忙中、快くレフェリーを引き受けてくださった方々には、この場を借りて深く感謝申し上げます。

編集委員一同